

## 実施上のQ & A

### Q<sub>1</sub> フィードバックする「よいところ」が見つかりません

A<sub>1</sub> 観察に慣れないうちは、どのようなことを書き留め、フィードバックすればよいのかわからないことがよくあります。これまでは、「やれていないこと」に注目することが多かったからだと思います。「よいところ」や「できているところ」を見つけようとすればするほど、難しく感じたり、同じ子どもにしは見つけられなかったりするかもしれません。

そんなときは、当たり前なことでもいいので、今子どもがしていることを言葉にしてみるのがコツです。ほとんどの子どもたちが「当たり前のことを当たり前」にやれている」からこそ、クラスの生活や学習が成り立っているのですから、当たり前のことこそ大切です。

クラスの状態がよくないならば、なおさら「当たり前のことを当たり前」にできる子が増える」ことはとても大切なことですし、そのようなメッセージが子どもたちに伝わることは意味があることでしょう。

### Q<sub>2</sub> 問題なくやれている子どもには効果がないのでは？

A<sub>2</sub> 日ごろちゃんと頑張っている子どもほど、「やって当たり前」「我慢してくれて当たり前」ですから、先生方はあまり声をかけません。いい子ほど、配慮が必要な子どもに迷惑に感じることをされても我慢をしてくれますが、一見穏やかに見えても、心の中で不満を抱えていることがあります。

学校でも家庭でも、頑張っていることに気づかれ、認められ、ねぎらわれることは、頑張っている子どもにも必要なことです。私たちは配慮の必要な子どもにはアンテナを高くして、ちょっとしたよい変化でもフィードバックする努力をするのですが、それだけでは、普通に頑張っている子たちが我慢しきれなくなることがあります。

このプログラムは、どんな子どもにも、どんな小さなことでも、できていることをフィードバックしていきます。課題のある子どもによかったことのフィードバックをするのは当然大切なことですが、日ごろ手のかからない子どもにもしっかり目を向けるチャンスになるとよいと思います。